

岩屋中だより

令和6年3月22日 NO30

発行 長崎市立岩屋中学校

文責：校長 川口 猛

すべての人に『ありがとう』を・・・

本日、3月22日（金）は、令和5年度の修了式でした。3学期を迎えるに当たって、3学期は、新しい年度の『0』学期だと話をしましたが、どのような3学期だったのでしょうか。

今年の1月は、能登半島の地震や羽田空港の航空機事故など悲しいニュースが相次ぎました。また、寒さも一段と厳しく、大雪の予報も相次ぎ、私たちを取り巻く環境は、予測がつかないことが多かったような気がします。

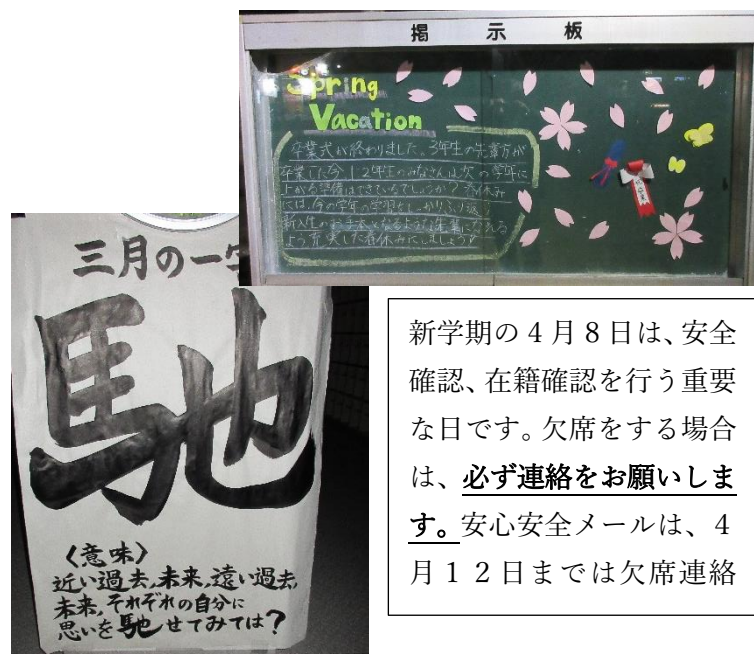
3学期は、令和6年度の『0学期』であり、次につながる学期でした。個人としても、集団としても、この3学期の過ごし方が、令和6年度につながる重要な時間であったことは言うまでもありません。個人として、この大切な時間をどのように過ごしましたか？自分で自分を褒めることができる何かがあれば、それは、大きな成果があったと考えてよいでしょう。また、自分で自分を褒めるところがないと感じている人もいるかもしれませんが、必ず頑張ったことはあります。今日、こうして修了式を迎えることができていること自体も、毎日の生活の積み重ねであって、努力の成果の一つと言えるでしょう。

集団という視点で振り返ったとき、『0学期』の成果は何でしょうか。私は、皆で作り上げた学級・学年であり、3月14日（木）に行われた卒業証書授与式だと思います。

送る立場として参加した卒業式でした。1・2年生の皆さんの心のこもった準備、装飾、掃除、式に臨む態度、歌・・・どれをとっても、大変素晴らしかったと感じています。卒業生だけで作る式ではなく、卒業生と1・2年の在校生皆で作りあげた素晴らしい行事だったと心から感じています。本当にありがとうございました。感動的で、巣立っていく卒業生にとってこの上のない宝物になったはずです。

もちろん、卒業式だけではありません。日頃の学級・学年の生活や生徒会活動、あいさつ、掃除、部活動など、校内の随所に皆さんの努力の足跡があり、それが、今の岩屋中学校をつくっていると思います。一人一人の今の生活があるのは、それぞれが頑張ってきたことに支えられているのだと感じます。今の学校生活があるのは、決して当たり前のことではなく、皆がお互いに支え合ったその成果です。『0学期』の意識度は個人で異なるかもしれませんが、向上するために今の自分に何かプラスをしたから今の自分があるのであり、向上するために今の集団に何かプラスになることをそれぞれが取り組んだからこそ、今の集団があるのです。互いに、今の自分があるのは、みんなのおかげだと思います。互いに、感謝の気持ちを持ち、心の中で『ありがとう』と言いましょう。『すべての人にありがとう！』と言える『今日』に感謝の気持ちを持ちたいですね。

春休みは、新学期に向けて、心と体と頭の準備をしてください。備えあれば憂いなしです。準備して新学期を迎えて下さい。



新学期の4月8日は、安全確認、在籍確認を行う重要な日です。欠席をする場合は、必ず連絡をお願いします。安心安全メールは、4月12日までは欠席連絡